

# 「個」と「集団」との関わりの中で育つ子ども<sup>†</sup>

薄田 大智\*・溜池 善裕\*\*  
大阪府寝屋川市立楠根小学校\*  
宇都宮大学教育学部\*\*

## 概要

一人学習が充実したものとなるためには、集団の力が不可欠である。学級の子ども達同士が、教師と子ども達が「網の目」となつてつながり合っている時、一人学習は深まっていく。そして、学級には温かい雰囲気形成されて、学ぶ意欲が増す。「個」が「集団」を支え、「集団」が「個」を支える関係が生まれる。そのような関係が基盤にあつてこそ、重松鷹泰が最も大切にしたい「しみじみとする授業」となるのである。「個」と「集団」との関わりの中で、どのような過程を経て、子ども達は成長していくのか。一人の子どもを中心に据え、その分析を試みた。

キーワード: 一人学習, 「網の目」論, 個, 集団, しみじみとする授業, 共存の感情

## 1. はじめに

筆者はこれまで、「しみじみとする授業」を目指して、実践を重ねてきた<sup>(1)</sup>。あたたかい雰囲気支え合う学級では、教師と子ども達が「網の目」となつてつながり合い、共存の感情がふくらんでくる<sup>(2)</sup>。筆者は、共存の感情とは、「あなたの言うことも分かるけど、私の言うことも分かってくださいね」という雰囲気の醸成だと捉え、力を注いできた。友達への思いを真剣に受け止め、自分の思いも受け止めてくれる関係が、しみじみとする授業には不可欠である。そのような「個」と「集団」の関係が出来る時、教室内の雰囲気はしつとりとして、柔らかいものになり、お互いに解り合おうとする空気に変わっていく。このような共存の感情の雰囲気は、どのようにして創られ、その雰囲気の中で、「個」はどのような育ちをするのであろうか。

本稿では、「個」と「集団」との関わりについて考えてみたい。取り上げる実践は、平成25年度・6年総合「卒業を前にして」である<sup>(3)</sup>。学習の中で、「個」がどのような学びをしたのか、その事実を分析して、考察を進めていきたい。

## 2. P男について

取り上げる児童は、P男である。P男は、4年生

の時、4階トイレの窓から牛乳びんを落としたり、金曜日に手洗い場の水を流しっぱなしにして、栓をしたまま下校して、月曜日には校舎内が水浸しになっていたり、これらの行動に振り回されていた。

そんなP男を5年生で担任した。6月上旬に、家庭科で親子一緒にカレーライスを作った。P男はその時、こっそりと家庭科の非常口の鍵を、誰にも気づかれぬように、開けていたのである。そして、翌日の土曜日、家庭科室に侵入して、鍋を空だきにして、そのまま逃げ出した。

米作りの学習<sup>(4)</sup>では、みんなで協力して、ボランティアの迎居さんに指導してもらいながら、一生懸命に米作りに取り組んだ。そんな時でも、P男は悪戯をくり返し、迎居さんを怒らせていた。しかし、全体としては、P男も含め一人学習に真剣に取り組んだ。

そして、6年生に進学した。6年生でも、再びP男の担任となった。6年生になってから、P男は、全く問題行動を起こさなくなり、表情も穏やかになった。6年生では平和学習に取り組んだが、一人学習にもとても熱心に取り組んだ。学習発表会の「劇づくり」にも、セリフや動きを一生懸命に考え、中心となって活躍してくれたのである。

## 3. 「卒業を前にして」

6年生になって、人が変わったように落ち着き、平和学習を経て、P男の変化は、周りの子ども達もはっきり気づくようになった。もちろん筆者も、担任としてP男の変化には気づいていた。P男は京阪

<sup>†</sup> Taichi SUSUKIDA\* and Yoshihiro TAMEIKE\*\*:  
Children who Grow up in Relation to  
the "Individual" and "Group"

\* Kusune Elementary school, Neyagawa

\*\* Faculty of Education, Utsunomiya University

電車が大好きで、筆者ともよく電車の話などをしていて、関係づくりはできていたので、ある意味安心していた。しかし、なぜP男がこんなにかわったのか、そのきっかけは、恥ずかしながら、最終単元で、P男がこの作文を書くまで気づかなかったのである。

#### 1) 2/14 「卒業を前にして」 P男

ぼくは、5年生の米作りと6年生の平和学習で学んだことは、日本の米作り農家は損をしないとやっていけないということだと思います。なぜなら昔は政府がお米を高く買って安く売るということをしていたけど、今の世の中はそんなことはできないのです。それはできなくなっているけど、日本にはお米が余っているからといって政府は減反政策をして、なおかつ外国から輸入しているし、米価は下落しているので、今の日本の農家は苦しいんだと思います。だからみんなにパンじゃなく、お米を食べて、お米を消費したらいいんじゃないかと思います。ぼくは心から思った米作り農家の人は、苦勞している。だからこそお米一つぶ一つぶ大切に食べたいです。

この5年で知った米作りは、少しだけ平和学習につながっていると思いました。例えば、日本はアメリカに車を大量に輸出しているので、アメリカは、そんなに車を輸出してくるんだったら、米を輸出させろといって、日本はOKしました。もしも日本がNOと言ったら、戦いになったかもしれません。

平和学習では、なぜ戦争はやまないのかということを考えて、ぼくは、戦争をなくならせる原因は、いくら探したとしても、たどりつけないと思います。でも、みんなの心が一つになった時、初めて戦争はなくなると思います。シベリア抑留では、多くの人がシベリアという異国で死んだ。戦争は、1945年8月15日で終わったわけではないことを知って、ぼくは本当によかったと思った。なぜなら、広島に原子爆弾が落とされたということはほとんどの人が知っていること。けど、シベリアの事実は知らん人が多くいるので、これを知って良かったと思いました。

将来は、京阪電車の運転士になりたい。自分の生き方は、事故などがなく、乗客の命と希望を運ぶような運転士になりたい。中学校に行っても、何事もあきらめず、「絆」をもって、中学校に行っても6年1組で学んだ事を忘れずに、友を大切に、6-1・22人、いや6年44名で新たな希望をもち、共に中学に進学していきたいです。

この6年をふり返って、4年生の時に先生をから

かったりして、5年生の時に学校でなべを空だきにしたりして、そして迎居さんには多大なご迷惑をかけたりにして、おこられてもくり返していました。ぼくは5年生が終わって6年生になって、薄田先生の6年1組でした。「これからは絶対に何があっても変わろう。人には迷惑をかけない」と思い、6年生を始めて、6-1の仲間がこのメンバー、この22人でよかったですと思っています。ぼくはこの22人がいたからこそ、変わったと思います。いつも明るいメンバー、休み時間には暴れ回っている22人がいたから、ぼくはこんなにも変わったんだと思いました。中学に行っても、6-1のような明るく、笑いがあるクラスであってほしいと思います。

この作文を読んで、初めて、P男が6年の初めに自分から「変わろう」と決意して頑張ろうとしていたことを知った。そこで、最後の話し合いは、P男のお知らせ発表<sup>(5)</sup>にしようと思った。このP男の思いを、集団はどう受け止めるのであろうか。早速、P男の作文についての一人学習を開始した。数人の作文を挙げてみる。

#### (1) 授業前の一人学習…「P男君の作文を読んで」

#### 2) 2/21 「P男君の作文を読んで」K子

私は、P男君の作文を読んで、P男君が変われた理由を考えました。それでE子さんも言っていたけれど、動物園のようなクラスがあったから良かったのかなあと思いました。動物園みたいに色々な個性があつてぶつかり合っているこのクラスで、まだはっきりとは分からないけれど、何かが変わったんだと思います。P男君は、京阪電車の運転士になれると思います。自分の中で変わろうと決めて、すぐ変わることができる人なんて、なかなかいないと思います。それだけ決意する力があるなら運転士になれると思います。

私も、この22人と同じクラスで変わることが出来たかなあと思いました。友達と一緒にいても、引かれてしまったらどうしよう…とか、すぐきらわれてしまったらどうしよう…と、常にプレッシャーを感じて一緒にいるだけで、つかれてしまっていたけれど、このクラスになって、作文とかを聞いていても、「えっ、そんなこと書いてもいいんだ。」と思うことがすごく多くて、今でもやっぱり作文を書くのは苦手だし、面倒くさいけれど、すなおになやみを書けるようになりました。それに友達と、バカみたいなことを言い合って、笑い合う回数が増えたか

なあと思います。それと同時に、意見がぶつかり合  
って、気まずくなってしまうことも増えてしまっ  
たけれど、その分、相手のことがもっともつとよ  
くわかることが出来るようになりました。

今、5年生の時の作文を読んでみると、なんか固  
いなあと思うし、その分は先生（注-5年の時の担  
任）がフォローしてくれてるなあと思うけれど、今  
の薄田先生は、何かそっけな〜感じで、ほとんど  
「すごいね」「どんなゲームですか」「楽しそうだ  
ね」「どこでそれを知ったのですか」みたいな、か  
た苦しい返事しか返ってこないの、余計もつと面  
白くして、どうにかしていつも先生がしゃべって  
いる時みたいに、「クッソー」とか「うるせー」とか  
書かせてやる〜って思って、もつともつと作文を書  
いて困らせてやる〜、何て言う、5年生の時には思  
ってもいなかったことばかり考えています。

そういうふうに変った今でも、やっぱり不安が  
あります。まだ友達関係のことは不安やしこわいし、  
勉強もどんどん難しくなっていく、分からないこ  
ともどんどん増えていきます。塾には行っているけ  
ど、進学塾だから、きっといい高校に入らないとい  
けないみたいになってしまう。私は、仲の良い子と  
一緒に入ったり、夢につながるような高校に行きた  
いの、受験シーズンになると、名門高校に入った  
人の名前がずら〜と並んでいて、すごくプレッ  
シャーがかかります。

それに、ファッションデザイナーって、あまりメ  
ジャーな仕事じゃないから、本当になれるのかっ  
てのが心配です。でも、やっぱりなりたいたから、  
どうしたらいいのか。私も絆を大切に、支え合  
っていったら、将来好きな仕事につけるのかなあ。  
まだ分からないことだらけだけれど、自分なりにせ  
いいっぱい努力をしたいと思います。ファッションデ  
ザイナーにもしなれたとしたら、自分にしかできな  
いようなファッションを楽しんでもらいたいです。そ  
のためには、いろいろな勉強とか資格とかもつたり  
しないとけないから、そのためにがんばります。

P男が変わった理由を、漠然とはあるが分析し  
ているところが、いかにもK子らしいと感じた。一  
方で、何でもそつなくこなすK子が、P男に触発さ  
れてか、不安に思っている本音を初めて打ち明けた。  
日頃気丈に振る舞っているK子が、このようなこと  
を考えていたんだということを知った。

3) 2/21 「P男君の作文を読んで」 Q男

ぼくは、P男君の作文を読んで、まず思ったのは、  
すごくきっちり書いているなあということです。理  
由は、自分の作文よりも、P男君の方が自分の気持  
ちを正直に、本音で書いているからです。

ぼくは、本当のことを言うと、P男君は変われな  
いんじゃないかなあと思っていました。その理由は、  
4年生、5年生の時、P男君はいろいろないたずら  
をしていました。その時は、先生に「もう絶対にや  
らへんな。」と言われて、「うん。」と言っていた  
けど、またいたずらをやっておこられて、というく  
り返しでした。なので無理なんじゃないかなあと思  
っていました。

でも、6年生になって、問題がおこらなくなりま  
した。それはなぜかと言うと、他にもないP男君が  
変わったからです。あのP男君が、運動会の応援団  
長をやってみんなをまとめたり、そうじを休み時間  
にやったり、人助けをしたり、ぼくはすごくうれし  
かったです。なぜ、P男君が変われたのかと言うと、  
もちろんP男君が6年生になる時に、「絶対に何が  
あっても変わろう。人には迷惑をかけない」という  
決意があったからだと思います。でも、それだけじゃ  
だめです。この6-1のクラスじゃなかったら変われ  
なかったかもしれません。それはなぜかと言うと、  
P男君は京阪電車が好きだから、「お知らせ」で10  
枚ぐらいその事を調べて発表しました。ふつうだっ  
たら、みんなあんまり興味がないから、途中であき  
てくると思うけど、みんなはしんけんになって分か  
ろうとして聞いていたので、P男君も心を開いたん  
じゃないかなあと思いました。ぼくもおたずねをし  
ました。あの時の話し合いは、今でも覚えています。

P男君は将来、京阪電車の運転士と言っていまし  
た。そして、運転士になって乗客の命と希望を運ぶ  
と言っていました。ぼくは、すごくがんばってほし  
いなあと思っています。それは、ぼくがP男君から、  
「変わる気持ちと、仲間がいれば変わる」という  
事を教えてくれたから、次はぼくがP男君の将来の  
夢の手伝いはできないけど、せめて応援ならでき  
るから、応援してあげたいです。

ぼくは、プロバスケットボール選手になりたいと  
いう夢を持っています。そこでぼくが何か、カベに  
ぶち当たった時、友達が本当に支えてくれるのか不  
安です。もし、今の6-1のメンバーが支えてあげ  
ると言ってくれても、もうすぐ卒業して、中学校に行  
くから不安です。でも、6年1組のメンバーがいな

くても、6年1組で話し合った事とかを思い出して、カベを乗り越えようと思います。もし、ぼくの夢がかなわなかったとしても、6年1組の一人一人の夢を、ぼくは応援したいなあと思いました。なので最後の話し合いは、みんながはげましあうような話し合いにしたいなあと思っています。

5/20の「お知らせ」に、P男は「京阪電車事故」いう題で、作文用紙10枚分の事故の歴史を書いてきて、その内容を、運動会終了後の6月下旬に「お知らせ発表」したのである。専門的な細かい事実の羅列のみの発表だったが、みんな最後まで、きちんと話を聞き、おたずねまでしたのである。その出来事も、P男にとっては大きかったようだ。

#### 4) 2/21 「P男君の作文を読んで」 S男

ぼくは、P男君と幼稚園の時からいっしょで、4, 5, 6年でもいっしょでした。4年生の時は、ひどいいたずらをしたり、ハサミをなめたり、ボンドを食べたりして、5年生では、いろいろな事件に関わったりしていて、正直に言うと悪い人でした。

でも、6年生になると、クラスのために牛乳がこぼれたら来てくれるし、いたずら事件はおこっていません。P男君は、みんなのおかげで変わったと言っていたけど、P男君だからこそ変わったんじゃないかなあと思います。もちろんみんながP男君を仲間はずれにしなかったし、無視もしていないからとも思うけど、まず自分で考えをつくらせて実行することができる事自体、すごいと思います。

ぼくは4年生から6年生までに、あまり変わっていないと思います。でも、P男君はすごく変わったと思います。P男君は、こんなに変わるんだったら、絶対に京阪電車の運転士になれると思います。だからぼくもP男君といっしょぐらいに努力して、夢を叶えたいです。

E子さんが言うように、このクラスが動物園だとしたら、P男君は飼育している人だと思います。理由は、何かあったら文句も言わずにすぐ来てくれて、そうじをしたり片付けたりしてくれて、ぼく達のことを助けたりしてくれるからです。P男君は、京阪電車になって命と希望を運びたいと言っていたけどぼくはもう十分努力する希望を与えてくれたと思います。

あともう少しで楠根小学校を卒業するけど、もう飼育してくれるP男君もいないので、自分も変わろうと思います。人に任せないで、自分から積極的に

変わろうと思います。ずっと6年生の1年間は、P男君にお世話になっていたの、いつか困っていたら、助けてあげようと思います。

先生のコメントに、「不安やカベにぶつかったらどうしますか?」と書いてありました。ぼくは、一人で不安やカベは乗り越えられないと思うから、仲間や友達とかといっしょに乗り越えたいです。友達や仲間を支えられたり、それにこたえようとしてがんばれるから、乗り越えられると思います。

みんなの昨日の作文で、「戦争はいけないと思います。」という人が何人かいたけど、「いけない」と言うだけで実行はできないし、するという人はあまりいないと思うので、ぼくがみんなの代わりに、平和(戦争のない世の中)を保つ自衛官、PKFになって戦争をなくしたいです。一般の人が戦争をなくそうとしてもできないので、その代わりになれるようにがんばりたいです。

みんなもやりたい事とか夢がいっぱいあると思うので、かなえてほしいです。そして同窓会を開いて、みんなビールとかを飲んでまた話し合いたいです。

S男も、P男の変化を認め、P男に影響を受けつつ、決意を新たにしている。一方、P男はこの時の一人学習で次のように書いている。

#### 5) 2/21 「22人の存在と将来の夢について」 P男

僕は、6-1・22人、男子13人、女子9人のこのクラスの存在は、僕の思い、大きく言えば、人生を変えてくれました。6年1組22人は、僕を支えてくれました。僕は、この6年1組が今までで一番いいクラスでした。毎日毎日共に過ごし、共に遊びふざけたこのクラスの一番いいところは、毎日毎日笑いがあるというところが、一番のことだと思っています。6年1組の先生は、薄田大智先生です。僕が5年の時に、たくさんしかってくれ、たくさんめいわくをかけました。

僕が6年1組のいいところと思うのは、やっぱり「お知らせ」だと思います。「お知らせ」は、毎日ほとんど宿題に出ます。6年になって「京阪事故」という題名で、作文用紙10枚分の作文を前で発表した時に、みんな何も知らない、興味のない京阪の内容で10枚読んでも、終わってからみんなは、おたずねをしてくれました。僕は本当にうれしかったです。

僕はやっぱり中学には行きたいという気持ちと、行きたくないという気持ちがあります。行きたいは、中学校に行くと、クラブとか勉強をがんばって、夢

への第一歩なので行きたい。行きたくないは、やっぱりこの22人とはなれたくないということ。なぜかと言うと、私立に行くと別の中学に進む人もいて中学では、木田小学校の約100人に対して、楠根小は約40人なので、3人に2人が木田小の人になり、みんなとちがうクラスになる確率が高いのでいやです。たとえはなればなれになったとしても、この22人のこと、6-1のことは一生忘れません。このクラスで学んだ、人を思うことの大切さや絆の大切さ、命の大切さを忘れずに、中学へ羽ばたいていきたいです。

僕は、京阪電気鉄道の第110回目の社員として、京阪に入社したいと思っています。京阪の運転士になるには、不安や困難や大きなカベがたくさんあります。これからの人生、まず中学校で勉強とクラブを両立させ、できれば成績をしっかり維持して、高校は、京阪に入社するというのも踏まえて、そこそこ入るのに学力がある高校に入って、勉強が難しくても、そこでくじけたら夢はないと思ってがんばります。

高校を卒業して、京阪電気鉄道株式会社運輸部の入社試験を受けます。倍率が3人に1人くらいしか入社できません。ここが1つ目のカベと考えています。そして、駅員として3ヶ月～6ヶ月勤務して、それから車掌として1年6ヶ月～3年勤務して、列車を運転するための国家試験を受けます。合格しても半人前で、指導運転士に教えてもらいます。その時にほとんどの「制限」を覚えるのですが、僕らが入社する時は、寝屋川市駅～枚方市駅の間で行う、連続立体交差事業があり、一部ずつ開通して、「制限」などいろいろ変わるので大変です。

もう一つあって、それは事故です。事故にあう人は50人に1人いて、あった人は、ほとんど途中で断念するので、一番のカベです。何があっても夢を決してあきらめずに、この6年1組でがんばったことを忘れずに、未来へとがんばっていきたいです。

2月26日の授業をがんばって考えたいです。

P男にとって、「京阪事故」のお知らせを、みんながきちんと聞いてくれたことが、とても嬉しかったようだ。個と集団が関わり合いながら、友達に支えられつつ、将来の夢について、思いを新たにしている。

そんな中で、最後の相互学習を、3/10に行った<sup>(6)</sup>。本当は、2/26に行う予定であったが、インフルエンザで学年閉鎖になり、この日に行くことになった。

(2)授業後の作文…「今日の勉強で」

6) 3/11 「今日の勉強で」 F子

今日のこの5時間目は、6年生最後の話し合いでした。私は前回休んでいて、「P男君の作文を読んだ」は書けなかったの、本音を書きます。あまりP男君本人には言えませんが、みんなが言っているように、優しい人だと思います。こんな私が席でとなりになってしまつて最悪なのに、イヤな顔一つせず、話しかけてくれました。5年生の時も、友達思いのおもしろい人だと思っていました。でも、私は、ちょっとどころか、するどい言葉を言ってしまうすし、給食当番の大おかずの係になったら、入れる作業はやらなくても全部やってくれたり、学習係もたまに出来ない時でも、全部掲示物をはりかえてくれました。

今回の話し合いでも思ったけど、P男君は「みんながいたから変わった」と言ったけど、みんなもP男君のおかげで変わった事や、助けてもらったことも多いと思います。もちろん私は、P男君以外のみんなにも、この2年間お世話になりました。何かちょっとふざけすぎたり、遊んだ時すごく楽しくって、6時の門限を破って7時半まで遊んだり、悪くなっていく面もありながら、こういう事は、友達がいるからできる事なんだろうなあと思います。自分でも思えるほど、いいようにも、悪いようにもこんなに明るくなれたのは、本当に「嵐」だけじゃなくって、みんなのおかげだなあとしみじみ思います。

私が発表した言葉は、あせってしまつて、変に一番伝えたい言葉が伝えられませんでした。2行に縮めずに書きます。“言葉に表せない事”というのは、「ありがとう」という感謝の言葉でした。みんなが私の気持ちのすべてをわかるわけじゃないけど、実は今すぐに、このイライラをだれかにぶつけたい。と思つても、今の私には、ちゃんと「うん」と優しくきいてくれる友達がいるし、言いたい事をすべて言える友達もいるし、私が出来ない事をがんばって手伝ってくれる友達も、つらい時に笑わせてくれる友達も、はげましてくれる友達も、かばってくれる友達もいて、3年生の頃よりずっとずっと学校生活が楽しくなりました。そして、3年生の頃よりかずっと1年が短く感じます。

今回の話し合いでも、最後の方のP男君、T男君、C男君の言葉が、すごく心に届きました。あまり会話の中に出てこなかったけど、P男君だけじゃなく

って、一人の話をしんけんになって聞けるみんなは、どんな夢でも叶うと思います。どんな夢でも、くじけず、がんばってほしいと心から思います。最後の話し合いがいい出来で良かったと、本当に嬉しく思います。

F子も、P男の話を受けて、自分の思いを授業の中でも発言して、そして作文にも書いている。卒業を前にして、自分の思いを、本音を出せていることに、成長を感じた。

#### 7) 「今日の勉強で」 S男

ぼくは昨日の、最後の、お知らせの特別バージョンで、みんなの本音の意見をきけてよかったと思います。

ぼくは、F子さんの「みんなは2年間で変わったところがありますか？」という質問をされて、「そういえばないな」と思いました。でも、P男君やA子さんや、R子さんやF子さんとかは、「変わった。」と言っていたので、進歩したんだなあと思いました。だからぼくも、P男君達のように、良い方に変わっていきたいです。

ぼくがもしP男君だったら、急には悪い事をやめられないと思うし、ずっとやっていたかもしれません。でも人助けができるほど変わったから、本当にすごいと思います。

そして、P男君がもし本当に京阪電車の運転士になれたら、安全運転で、乗客の命と希望を運ぶ運転士になって、将来は社長になってほしいです。ぼくは、P男君に教えてもらった事をいかして、自衛官かPKFになって、きびしいかもしれないけど必死でがんばって夢をかなえたいです。

P男君はぼく達に支えられたと言っていて、ぼく達はP男君に支えられたと言って、おたがいが感謝し合っていたら、関係がよくなっていくと思います。

これは人の事(人の話)だけど、これが国と、国の中の地域とかだったら、戦争や紛争はないと思います。だから結局は国や地域には、人が大きく関わっていると思います。そして、あとは基本的な認め合いや思いやりなどをしたら、絶対に戦争はなくなると思います。でも金や欲望があって、認め合わず思いやりがない人たちがまだいるから、戦争や紛争などの争いが起こると思います。そして、その争いを止められる仕事は、自衛隊やPKFなどしかないと思います。だからぼくは、その自衛隊やPKFになって、平和な世界になれるようにがんばりたい

です。

S男は、これまでのP男や友達との関係を意識して、自分なりの生き方を模索している。お互いが励まし、励まされながら、自分の未来を考えていく、しみじみとした学び合いの雰囲気、クラスにつくられていることを実感できた。

P男は、この授業後、次のように書いている。

#### 8) 3/11 「今日の勉強で」 P男

僕が今日の勉強で思ったこと。まずO男君からR子さんまでは、僕のことや、作文を読んで思ったことを発言してくれました。みんなは、僕をお手本だと思ってくれたり、すごいと思ってくれていて、僕はお手本になろうとしたわけではないけど、お手本になって、お手本としてみんなに役立ったり、すごいと思ってきているということを知って、僕はなぜ変わったのかは、みんなに支えられた事が一番のことと、改めて思った。

やっぱり4年、5年の時より変わったことは、まず学校に毎日行きたくて、22人と同じ教室、同じ空間で過ごせたり、休み時間や放課後に遊んだり、毎日が、4年、5年では考えられないことだったと思いました。もう一つあって、同じ先生で、それが薄田先生に2年間担任をしてもらってよかったと思いました。

その後にS男君が話を交えて、僕は京阪電車の運転士になれる。O男君は、変なことをやっている、京阪にくわしい、京阪電車の運転士になれるという意見にはうれしいです。僕が運転士になれたら、みんなにできるだけ、僕が運転している電車に乗ってほしいです。京阪にくわしいということで思い出されることは、作文用紙10枚分の「京阪事故100年」のお知らせを、興味もないのに最後までみんな聞いてくれて、さらにおたずねも出たのでよかった。あの日のことは、今でも覚えています。

さらに意見が出て、いろんなところに気を配れる運転士になれる、運転する列車に乗りたい、この意見にはぜひとも一番に乗ってほしいです。いろんなところに、今まで気をつかうほどではないが、気にはしていたし、後ろのロッカーをそうじしたのも、一つのことになるんだと思います。O男君の「脱線したる」は、ゲームの話の脱線で、現実ではそのようなおそろしい事はしませんので、どうぞご安心下さい。

今は、こんなに多くの人が、僕が運転する列車に

乗りたい、乗りたいと言ってくれるけど、5年の終わりまでの僕だったら、絶対に乗りたいなんて言わないし、僕がもし6年生でも悪さをしていたのであれば、この話し合いはなかったと思うし、こないなクラスではなかったと思いました。

僕は、22人に支えられ、今日までの11ヶ月の日々が、平和におだやかに過ごせたことに、心からよかったですと思っています。そして僕は、自分ではみんなを支えたということではないが、僕が支えていたのであれば、支えてもらい支えたので、恩返しのできるようなことができたのであればうれしいです。そして、一生今日の授業と、1年間の思い出、22人と過ごした日々を、一生大切にしていきたいです。

夢を叶えるのは、自分の努力であり、ある意味孤独である。でもそれはエゴではなく、いろいろな人の支えの中で「個」が生きること、それこそが大切である。だからこそ、助け合い・協力が必要になる。望ましい「個」と「集団」の関係は、このようなものではないか。P男は、他人の存在が、友の情けの心が、はっきりと意識の中に育っている。P男をはじめ、他の子ども達もそうである。そうすると、個は成長し、変わることも出来るし、集団の雰囲気もよくなり、他の子どもも成長していく。ここで特筆すべきは、子ども達に感謝の心が芽生えていることである。P男はみんなに、みんなはP男に、お互い感謝し合ってる。この感謝の気持ちが、学びのエネルギーとなり、共存の感情も膨らんできた。

卒業を5日後に控えた3/13に、最後のお知らせを書かせた。P男は、次のように書いてきた。

9) 3/13 「最後の『お知らせ』」 P男

僕は、最後の「お知らせ」で何を書こうと考えたところ、2年間お世話になった薄田大智先生に向けてしようと思いました。

先生とは5年1組の生徒になって、初めて薄田先生と関わることになりました。そして薄田先生のクラスになって宿題で出たのが「お知らせ」でした。初めて「お知らせ」が宿題に出た時には、「こんな毎日書かなアカンの一、めっちゃダルイやん」と思っていました。初めての「お知らせ」は、多分「5年生になって」か何かだったと思います。内容は忘れられました。

そして、始まったのが米作りでした。米作りでは、薄田先生の「お知らせ」が特別バージョンなどとなり、お米のことなどを調べに調べました。そう言え

ば、「迎居さんにインタビュー」というお知らせで、初めて僕は発表したと思います。みんなの前で発表したのは、内容は迎居さんのことや、迎居さんにおたずねしたことだったと思います。これを初めに、みんなの前でいっぱい発表しました。5年生での米作りでは、田植えや稲刈りがあって、たくさんのお思い出ができて、みんなとの「絆」も深まったんじゃないだろうか？

5年生では、悪いことをたくさんたくさんして、先生もすごく大変だったと思います。こんなにもたくさんのお悪さをしてきた僕を、1度も見捨てずにいてくれたのがうれしかったです。

5年生の任務として、重大な卒業式がありました。僕は卒業式の実行委員になって、ほかの3人と共に呼びかけを考えました。そして僕が一番卒業式で、6年生を気持ちよく旅立たせようと思って、全力で練習をがんばりました。そして本番は、失敗しないかと思って緊張しました。失敗せず6年生を気持ちよく旅立ちをさせることができたと思いました。

6年生では、最高学年の自覚をもつてのぞみました。担任の先生の発表、5年生までの先生の発表で残っていた先生には、目を疑いました。担任は、まさかと思っていた薄田大智先生でした。でも、気楽でいいなあと思いました。そこで決心しました。「これからは何があっても変わろう」と心に誓って、6年という新たな一歩を踏み出しました。

6年といえば、やっぱり平和学習が一番のことだと思いました。今年から修学旅行の行き先が、広島から変わり、新たな修学旅行の平和学習の地は、京都府舞鶴市の舞鶴引揚記念館に行くということを初めて知りました。そして、6年生でも大事なのが「お知らせ」です。6年生のお知らせでは、京阪に関することを多く発表しました。

平和学習では、世間の人間があまり知らない、シベリア抑留、シベリアからの引き揚げを学びました。シベリアという、マイナス30℃にもなる、寒いところでのありえないような環境での、木を切り倒すという重労働をさせられていた。そして、シベリア抑留にて、55000人もの人々が、異国の土になったということ。たとえ生きて帰れても、家族がいなかったり、帰る途中に亡くなった人は海に捨てられた。シベリアで死に、船で死んだ人の無念さを、この肌で実感しました。舞鶴引揚記念館には、全校のみんなの平和の願いを書いた、平和の象徴のハトに書か

れた平和の願いを、心をこめて捧げた。

ハトといえば、京阪特急のヘッドマークの平和のハトは、戦争中に日本はとんでもないことになり、世界中が平和になってほしいと思い、当時の京阪の社長が、ハトを当時一番停車駅の少なかった特急につけました。もし、当時に快速特急やK特急があったら、そっちに平和のハトをつけていたと思います。その証拠に、快速特急を走らせる時は、ハトのマークを提出しています。

それでは本題に戻って、「お知らせ特別バージョン」を、これまでたくさんして、ついに僕たちにも旅立ちの日がせまってきたんだと実感できる出来事があった。それが最後の「お知らせ特別バージョン」の「卒業を前にして」の作文を書くことでした。クラスの22人や先生に対して、「ありがとう」の気持ちでいっぱいということ。6年になって「これから何があっても変わろう」と決心したことを、作文で初めて打ち明けました。もし、「卒業を前にして」の作文がなかったら、このことは誰にも打ち明けることはなかったのではと思いました。そして最後のお知らせ発表では、みんなに「ありがとう」という気持ちを忘れません。そして、伝えられてよかったです。残り少ない学校生活を大切に、「旅立ちの日」を迎えたいです。

薄田先生には、2年間という長い時間関わってもらい、僕は「お知らせ」には言葉には表すことのできない本音が言えるのがとてもいいと思います。この「お知らせ」の取り組みが、僕が変わることのできた原因の1つだと思っています。やっぱり「お知らせ」は、最高の宿題だと思います。

2年間本当にありがとうございました。これからもご健康で、いつまでもいつまでも「お知らせ」を続けて、長生きして下さい。「2年間ありがとう」  
P男 6-1

#### 4. おわりに

以上、P男を通して、「個」と「集団」がどのように関わり、成長していくのかということ、卒業を前にしての実践を通して検証してみた。学習が進むにつれて、筆者の中に、漠然とはあるが「P男らしさ」が見えてきた<sup>7)</sup>。

P男は、自分が人のためにしてあげたことや、手柄などは、決して人に報告しない子である。しかし、それに、気づいてほしい、認めてもらいたいという気持ちは、人一倍強いのである。それに気づいても

らえず、満足できない時、問題行動に走ってしまったのではないだろうか。したがって、我々が考えなければならないことは、「響き合う学級集団」をどうつくるのかということである。「網の目」が強くなった集団の中で、「個」は育ち、成長する。そして、集団も高まっていく。その時に、個性的思考も表出してくる。P男は、「みんなと関わり、認められることで自分の存在意義を感じ、相手の立場に立って物事を考える子」だと言ってくる。

このようなP男の個性的思考は、P男と他の子ども達が、お互いに感謝の気持ちをもち合うことで、初めて顕著になり、共存の感情も強くなっていった。そんな子ども達が、卒業直前の最後の相互学習で行ったことは、他でもない「感謝の気持ちの伝え合い」であった。しみじみとした学び合いによって、共存の感情ははぐくまれ、学習は深まっていく。そのような集団であるからこそ、相互学習で、しみじみとする授業が展開できるのである。

#### 付記

本論考は、全文を薄田大智が単独執筆し、溜池が文章表現等に目を通して作成された。(溜池善裕 記)

#### 注

- (1) 薄田大智・溜池善裕「『一人学習における個性的思考』(『宇都宮大学教育学部教育実践総合センター紀要』no. 36, 2013年)を参照のこと。
- (2) 同上。
- (3) 実践の概略については、溜池善裕「授業とは何をいうか—『しみじみとする授業の先にあるもの—』(『宇都宮大学教育学部教育実践総合センター紀要』no. 37, 2014年)を参照のこと。
- (4) 実践の詳細については、前掲論文(1)および(3)を参照のこと。
- (5) 「お知らせ発表」についての詳細は、拙稿「粘り強く追究する子どもの育成を目指して～6年・総合『これからの平和』の実践～」(『学習研究』no.455, 2012年2月)を参照のこと。
- (6) 授業記録は、前掲論文(3)を参照のこと。
- (7) 「その子らしさ」については、前掲論文(1)を参照のこと。その子らしさは、個性的思考ととらえ、一人学習で、個人の追究心を、満足しきるまで追いかけた時、初めて個性的思考が表れることを言及した。